

交通弱者の移動環境の改善について

交通弱者の移動環境の改善に向け、区として現行公共交通を補完する新たな交通政策のあり方に関する検討を進めており、これについて報告する。

1. 経緯等

昨年度区が実施した「区民移動実態把握に関するアンケート調査」（別添資料）では、住宅地内で路線バス等の運行が困難ないわゆる交通空白地域において、高齢者など交通弱者の移動支援が課題として明らかになった。特に大和町や若宮地域では、調査から交通空白地域が存在し、かつ現在の公共交通に不満をもつ区民が比較的多いことが判明した。

そこで区では、こうした交通空白地域における移動困難者の支援について、先進自治体の取組みとして、コミュニティタクシーを活用した支援策が、狭い道路が入り組む区内の住宅地では有効であることから、実証実験の実施に向けた検討を進めている。

2. 先進自治体の支援策（例）

交通空白地内におけるコミュニティタクシーの運行

- | | |
|---------|--|
| ①対象地区 | 路線バス等の公共交通手段のない交通空白地域 |
| ②運行方法 | 主な公共施設と鉄道駅をワゴンタクシーが巡回する
(路線バスと重複しないエリアで乗降が可能) |
| ③利用対象者 | 高齢者、障がい者、子育て世帯など |
| ④利用者負担 | 大人1回150円～300円（ルート of 距離等による） |
| ⑤自治体の支援 | 自治体がタクシー事業者 to 一定額を補助 |
| ⑥ルート選定等 | 住民代表、専門家、行政等を交えた検討会で選定
目標の利用者数に達しないルートは見直し（一日70人） |

3. 区の事業導入に向けたステップ

- ステップ1 先進事例の調査、事業導入に向けた制度・課題等の整理
- ステップ2 実証実験（協力事業者と協定、ルート選定、関係行政機関等への届出、運行実験による課題等の整理）
- ステップ3 実証実験の成果を踏まえ本格事業導入を検討

1. 調査概要

(1) 調査目的

公共交通サービスの在り方を検討するため、区民移動実態の把握に関するアンケート調査を実施した。

(2) 配布・回収状況

区民 18 歳以上を対象に、無作為に抽出した 3,000 人に配布し、1,202 人（回収率 40.1%）を回収した。町丁別回収率も約 40%前後となっており、回収数に地域差は見られない。

表 1-1 調査概要

	内容
調査時期	平成 30 年 8 月 21 日 ～平成 30 年 9 月 5 日
調査対象	中野区全域 18 歳以上
調査方法	・3,000 人を無作為抽出 ・郵送配布・郵送回収

表 1-2 配布・回収状況

	町丁	人口	配布数	回収数	回収率	人口比
1	南 台	20,216	264	112	42.4%	0.6%
2	弥生町	22,847	154	68	44.2%	0.3%
3	本 町	29,231	197	72	36.5%	0.2%
4	中 央	29,235	195	70	35.9%	0.2%
5	東中野	23,538	159	62	39.0%	0.3%
6	中 野	27,258	184	88	47.8%	0.3%
7	上高田	20,990	246	93	37.8%	0.4%
8	新 井	18,208	123	55	44.7%	0.3%
9	沼 袋	13,831	93	41	44.1%	0.3%
10	松が丘	6,523	72	31	43.1%	0.5%
11	江原町	9,271	117	45	38.5%	0.5%
12	江古田	12,119	135	56	41.5%	0.5%
13	丸 山	5,003	64	22	34.4%	0.4%
14	野 方	21,467	145	54	37.2%	0.3%
15	大和町	15,713	204	72	35.3%	0.5%
16	若 宮	12,779	153	56	36.6%	0.4%
17	白 鷺	11,784	135	56	41.5%	0.5%
18	鷺 宮	16,690	192	78	40.6%	0.5%
19	上鷺宮	14,138	168	67	39.9%	0.5%
20	不明(無効票)	—	—	4	—	—
	回収数	330,841	3,000	1,202	40.1%	0.4%
	有効回収数	—	—	1,198	—	—

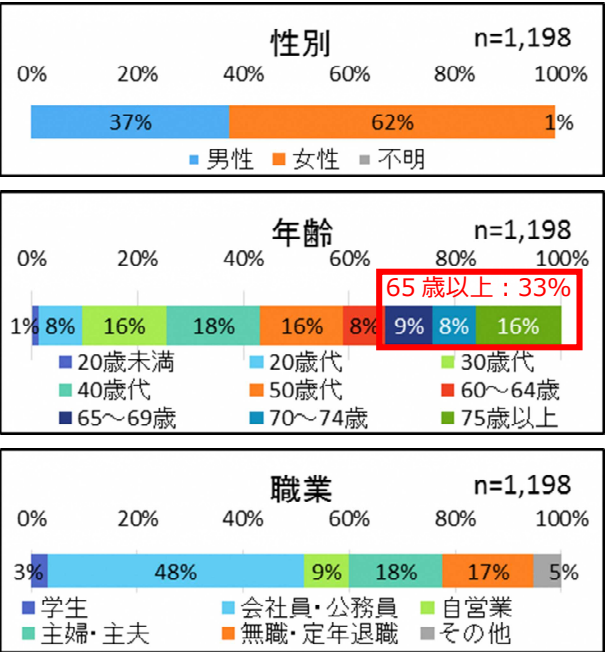
2. 回答者の属性（性別・年齢・職業）

性別は、62%を「女性」が占める。

年齢は、全年齢層から回答を得ており、65 歳以上の高齢者は、33%である。

職業は、「会社員・公務員」が最も多く 48%、次に「主婦・主夫」が 18%、「無職・定年退職」が 17%である。

図 2-1 性別・年齢・職業



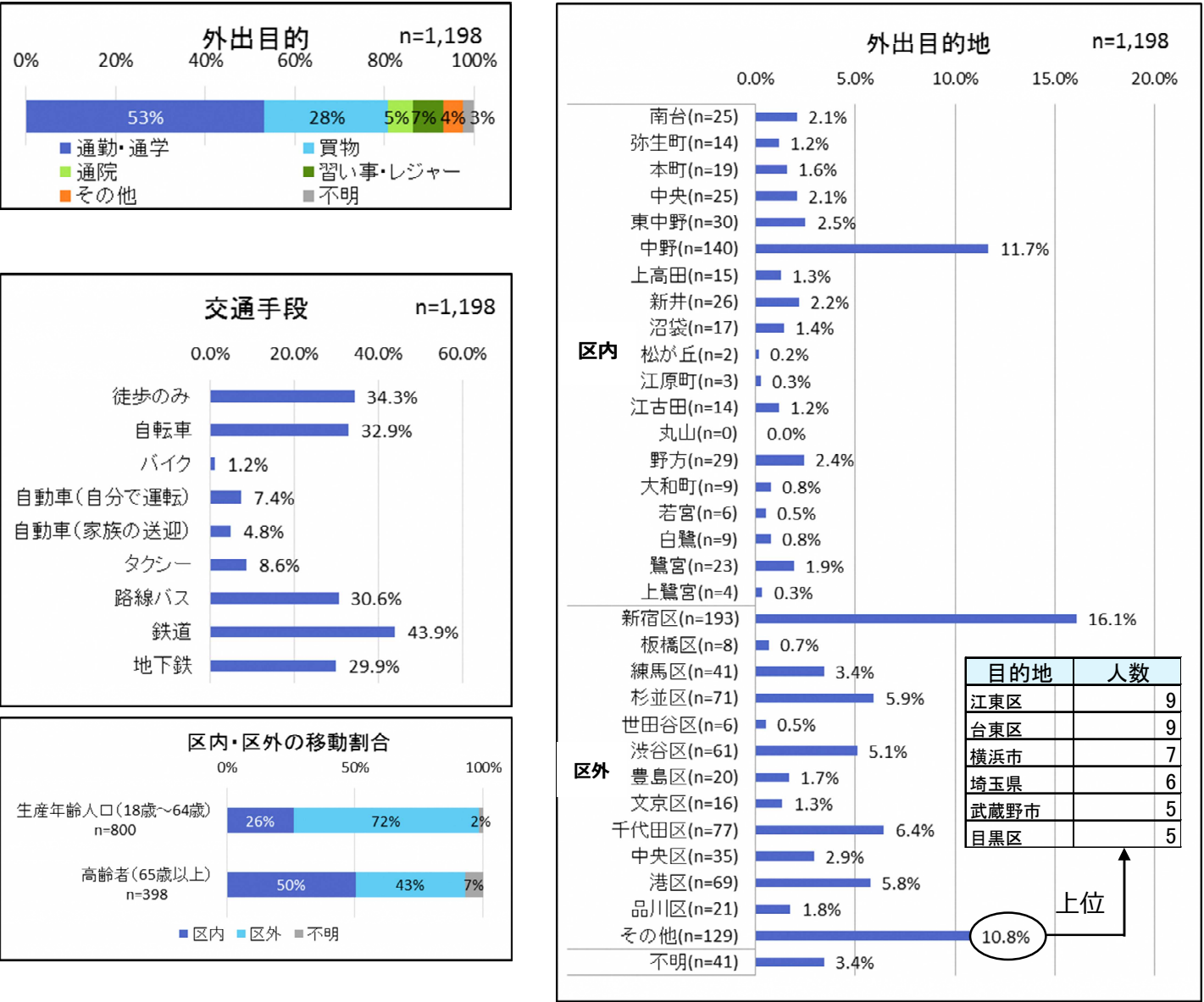
3. 区民の日常の移動実態（外出目的・外出目的地・交通手段）

会社員・公務員が約半数を占めていることもあり、日常の外出目的は「通勤・通学」が 53%、次に「買物」が 28%を占める。

行き先の外出目的地は、「新宿区」が 16.1%、次に「中野駅周辺」が 11.7%を占める。区内・区外の移動割合を年齢構成で見ると、生産年齢人口（18 歳～64 歳）の 72%は区外に移動している。一方、高齢者（65 歳以上）は、区内の移動が 50%を占め、区内移動の割合が高い。

交通手段は、「鉄道」が最も多く 43.9%を占め、「徒歩のみ」「自転車」「路線バス」「地下鉄」は約 30%を占めており、さまざまな交通手段により、移動していると考えられる。

図 3-1 外出目的・交通手段・外出目的地



区民移動実態把握に関するアンケート調査結果（2018 年度実施）

4. 交通手段の満足度と公共交通空白地域

満足が約 66%と満足度は高い一方で不満が 14%存在しており、「大和町」「若宮」「江原町」の順に不満が高い。鉄道駅・バス停から半径 250m の範囲から外れる、いわゆる公共交通空白地域は鷺宮圏域に集中しており、特に「大和町」「若宮」は木造住宅密集地域で狭い道路が多く、路線バス等が通りにくい。

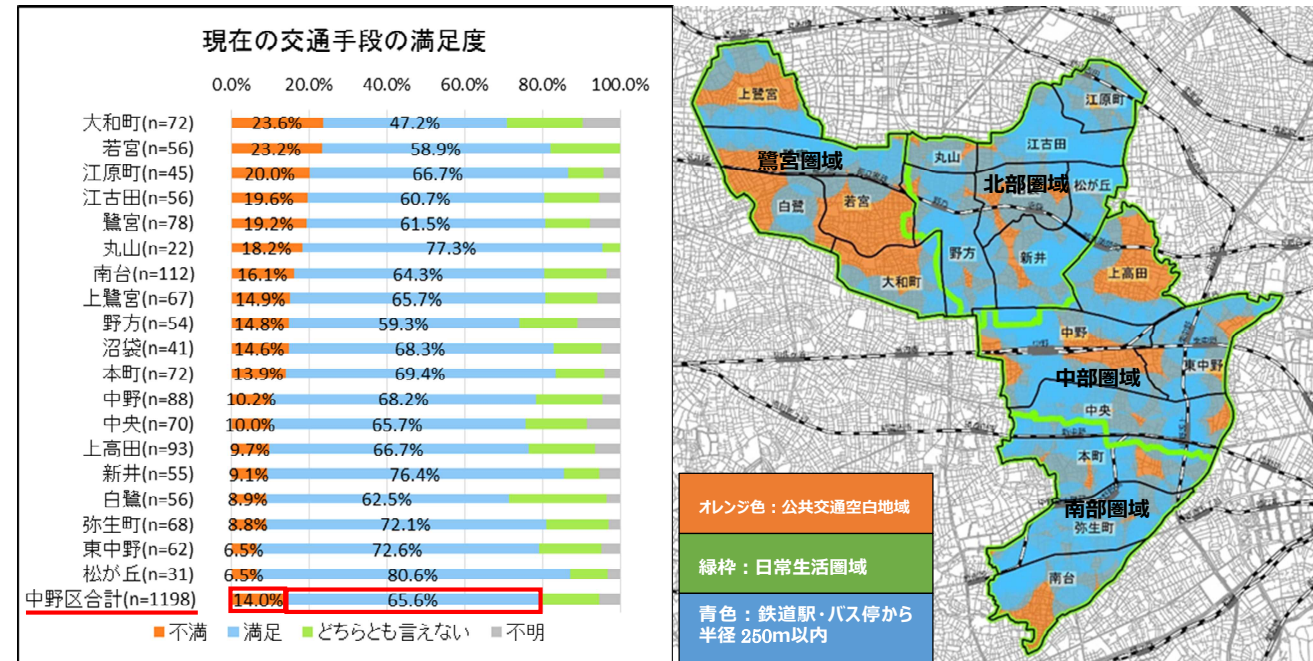


図 4-1 現在の交通手段の満足度

図 4-2 公共交通空白地域

5. 公共交通空白地域（鷺宮圏域）の日常の移動実態と移動ニーズ

鷺宮圏域（大和町、若宮、白鷺、鷺宮、上鷺宮）について、アンケートを集計した。

(1) 外出目的と交通手段

「通勤・通学」が 48.3%、次に「買物」が 30.1%を占める。これらの外出目的の交通手段は「鉄道」が最も多く 58.1%を占め、次に「自転車」が 36.8%、「徒歩のみ」が 31.3%の順である。また、「路線バス」は、27.7%である。

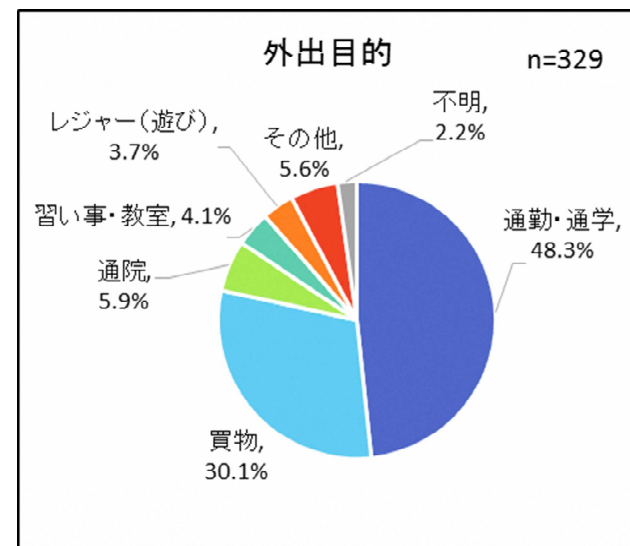


図 5-1 外出目的

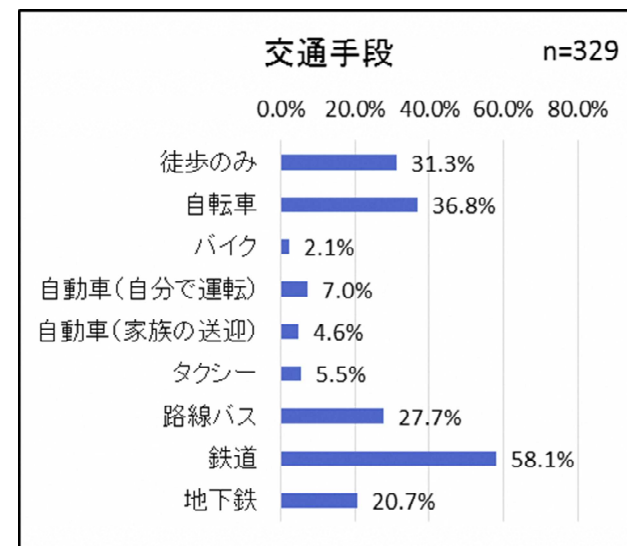


図 5-2 交通手段

(2) 路線バスへの不満理由と移動ニーズ

「目的地の近くまで行くバス路線がない」の不満が 38%を占め最も高い。また、不満の方の移動ニーズは、「中野駅」が 31 人と最も多く、JR 中央線の高円寺駅、新宿駅方面への移動ニーズが高い。

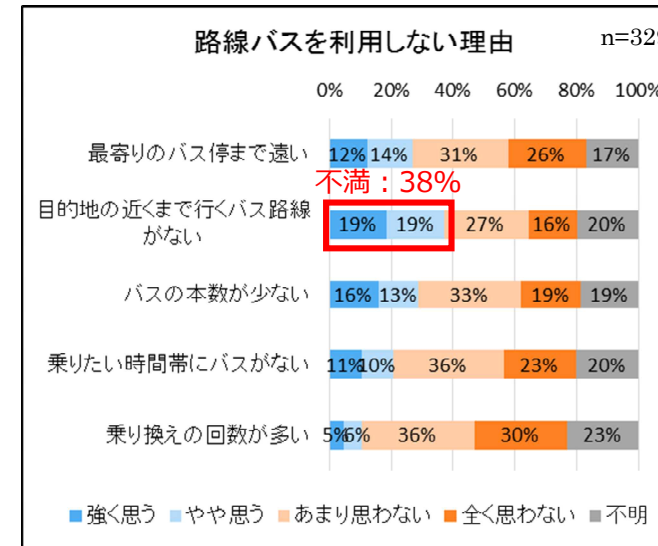


図 5-3 路線バスを利用しない理由

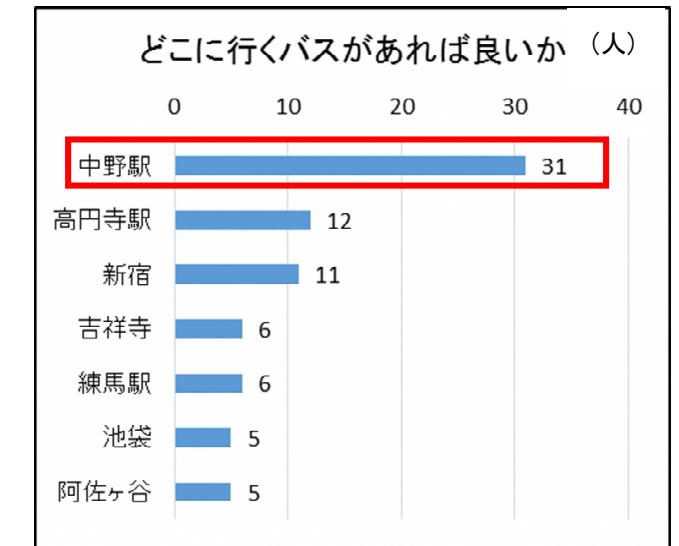


図 5-4 どこに行くバスがあれば良いか（移動ニーズ）

(3) 移動時間帯

全体で見ると、朝は 7 時～8 時台、夜は 17 時～19 時台で移動割合が高い。高齢者（65 歳以上）で見ると、朝は 9 時～10 時台、夕方は 15 時～16 時台で移動割合が高く、日中の時間帯に集中している。

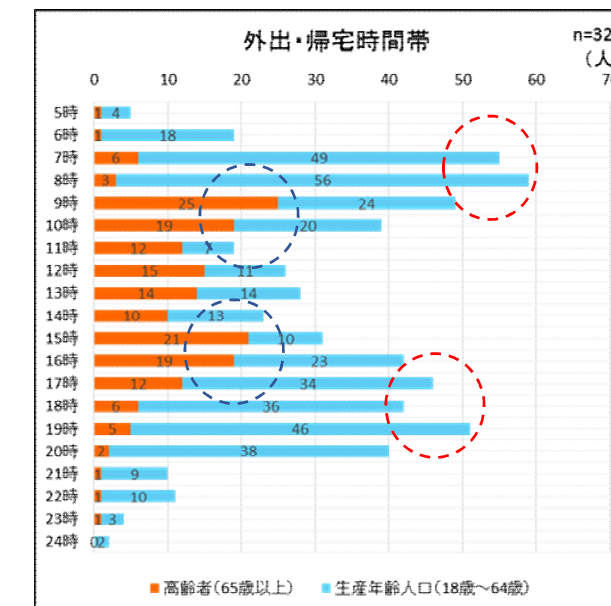


図 5-5 外出・帰宅時間帯

6. 本調査から見てきた傾向

アンケート調査結果等から、現在の交通手段について、区全体として満足度は高い。公共交通空白地域（鷺宮圏域）においては、不満の割合が高い傾向があり行先としては中野駅への移動ニーズが高い。今後は、公共交通空白地域の移動環境の改善に向けた検討を進める必要がある。